

令和2年3月2日

あきる野市議会議長 殿

会 派 名 明るい未来を創る会

代 表 者 合 川 哲 夫

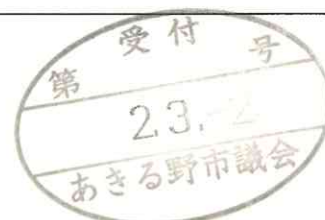


会派の（調査研究・研修）報告書

このことについて、下記のとおり実施したので報告します。

記

1 調査研究または 研修実施日	令和 2 年 2 月 6 日（木）
2 調査研究または 研修の場所	広島県立広島叡智学園
3 調査研究事項 または研修名	公立での全寮制中高一貫校及び国際バカロレア導入について
4 参加者氏名 (3名)	中村のりひと、奥秋利郎、合川哲夫
5 調査研究または 研修の概要及び 感想等	別紙のとおり



【概 要】

1 視察場所及び視察研修事項

学 校 名 広島県立広島叡智学園
所 在 地 広島県豊田郡大崎上町大串3137-2
視察事項 公立での全寮制中高一貫校及び国際バカロレア導入について

2 教育指針

本校は平成31年4月開校、日本全国、世界からの子どもを受け入れて、次の3つの目標を掲げ、教育を進めている。

- 学びを通じて平和な社会づくりを実現し続ける存在となることを目指す。
- 社会の持続的な平和と発展に向け、世界中のどこにおいても地域や世界の「より良い未来」を想像できるリーダーを育成する。
「学びの変革」の目指すべきモデルとなる。
- 「グローバルな視野」と「地域に根差した心」の双方を大切に、主体的に学び続けるラーニングコミュニティを形成する。

中高一貫校として、この3項目を教育目標に、現在第一期生が在籍し、恵まれた瀬戸内の自然環境の中で、自由に2人以上の教諭の下で授業を受けている。

全寮制で、すべての生徒は親元を離れ、学園内にある寮で、規則正しい生活をしながら勉学に励んでいる。

本校は、いわゆる羊羹型の校舎でなく、それぞれの教室が独立して建てられ、中央の広場を囲む廊下から、それぞれの教室へ、又そこから図書室、その他教室へと進んでいける、いわゆるフィンガータイプの校舎で、日本では珍しいタイプの校舎である。

体育館が間もなく完成の時期を迎え、2回目の入学式には間に合うことでしょう。

広場を囲む中廊下



視察研修風景

授業風景



会派・明るい未来を創る会視察参加者



【感 想】

広大な敷地にゆったりと様々な建物があつた。一見すると、学校とは思えない空間になっている。当市にあるような学校然とした空間とは大きく異なる。中に入ると職員室から違うし、教室にしても閉ざされた空間ではなく開放的な空間となっている。

建物に特徴はあるけれども、公立の中高一貫校で全寮制の学校でもあり、なお且つ国際バカロレア認定校を目指している。

東京では全寮制ではないが、東京学芸大付属国際中等教育学校が中高一貫で国際バカロレア認定校になっている。

大崎上島というある意味では何もない場所で6年間を過ごすのは容易なことではないと思うが、全寮制という中で、そして海に囲まれた大崎上島での6年間でどう育っていくのかは、外部の私でも期待してしまう。

今回の視察先に広島県立広島叡智学園を選んだ理由は、学校のヴィジョンである『社会の持続的な平和と発展に向け世界中のどこにおいても地域や世界の「よりよい未来」を創造できるリーダーを育成する』をどのようにこれから実践に移していくのか非常に関心があったからである。

当市においても、かつては秋川高校跡地に石原都政時代にスポーツ系の高校を作るという構想があった。結果的には無くなったが、そのままできていたらどうなっていたのか。

これからのグローバル時代においては、世界中で生きていけるような教育が必要と考えるし、結果的に自身の基礎を作ってくれた地元へ後に恩返しをする気持ちに繋がるかもしれない。

いわゆる義務教育時代を楽しく生きることができれば、その学校がある地元への愛に繋がると思う。

良い教育というものは一言では言えないが、個々の個性を、家庭の所得に関係ない公教育の中で育もうとしている広島叡智学園の考え方は、当市にも今後生かせると思う。

以上